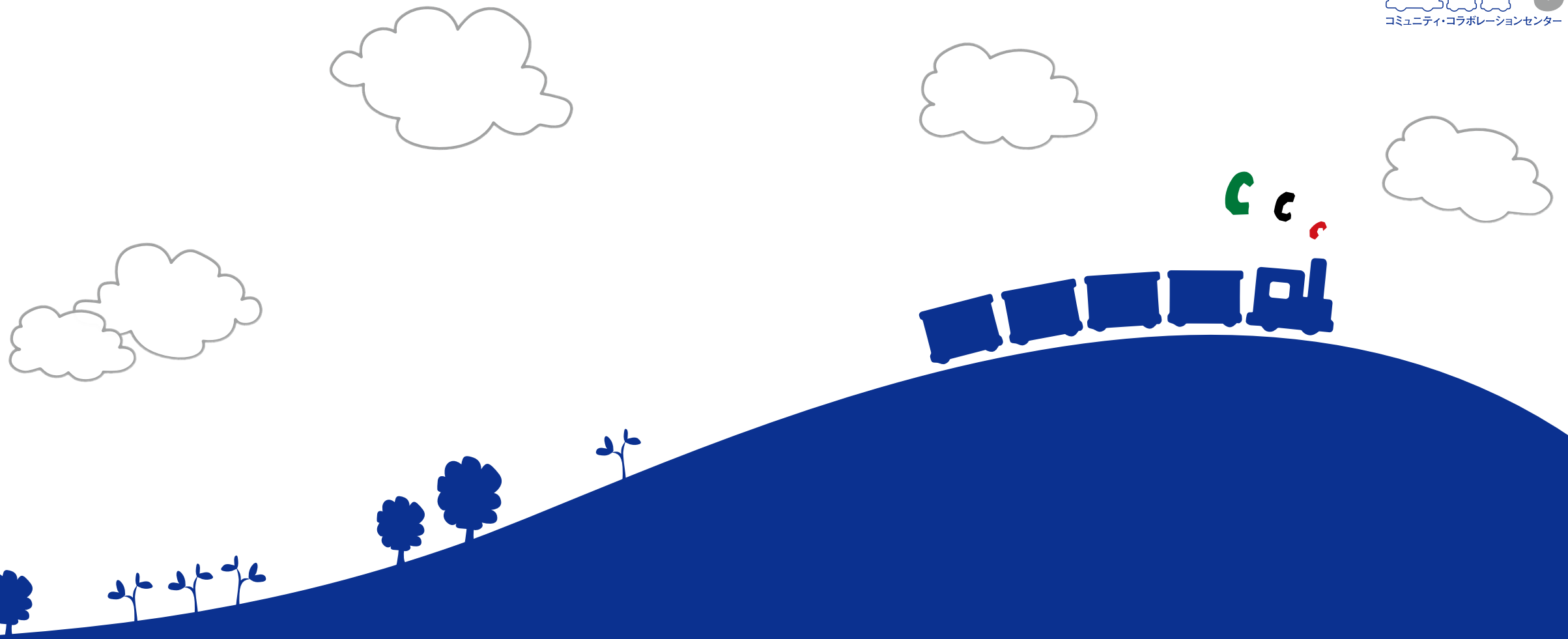


2019



 **愛知淑徳大学**
コミュニティ・コラボレーションセンター

長久手キャンパス
〒480-1197
愛知県長久手市片平二丁目9
TEL (0561) 62-4111 (代表)

星が丘キャンパス
〒464-8671
名古屋市千種区桜が丘 23
TEL (052) 781-1151 (代表)

CCC 活動報告書

愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター

コミュニティ・ コラボレーションセンター（CCC）とは

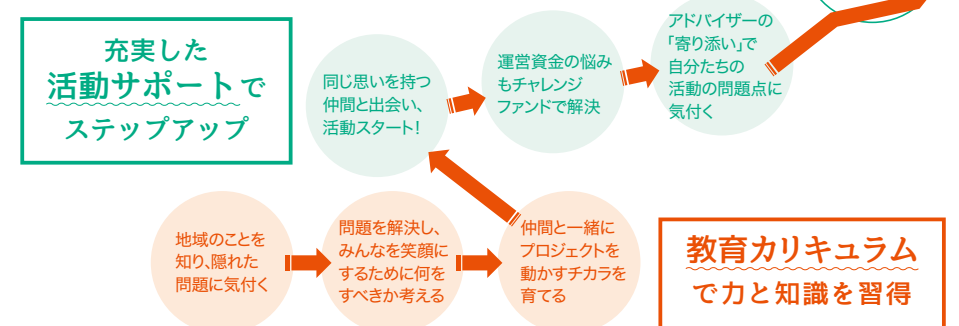
広い視野と行動力を身に付け、社会人基礎力の向上を目指します。

「地域に根ざし、世界に開く」を基本姿勢に、学生一人ひとりが地域で活躍し、社会に貢献できる人材になることを目指しています。ボランティアに留まらず、学外の様々なコミュニティとの連携を強め、「教育カリキュラム」と「活動サポート」の両軸で学生たちの意欲や思いを実践的な活動に結び付けています。

CCCの学生育成ビジョン

（みんなの「笑顔」で地域を、そして社会を変えよう。）

広い視野と行動力を養う実践的カリキュラムと、スタッフのあたたかいサポートで
他人を思いやれる、「素敵なオトナ」にブラッシュアップ！



CCCの特色

1 「地域や社会に貢献したい」という 思いに応える教育カリキュラム

CCCでは、企業が実際に抱える課題をグループで解決していくPBL（課題解決）型授業、ボランティア活動やまちづくりに関する基礎知識を学ぶ講義型授業などを通して社会貢献活動について学びます。

2 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング

地域の行政機関、企業、NPOなどからボランティアの募集情報が届きます。CCCでは、学生の思いに耳を傾け、それに合わせたボランティア活動を紹介・支援しています。

3 学生が企画・運営する地域活動をサポート

CCCでは、地域での課題を自ら発見し、それらを解決するために、数多くの学生団体が活躍しています。活動に行き詰まった場合は、CCCスタッフが寄り添い、一緒に課題の解決を目指します。



目次



1. 2019年度 特別報告	
「コラボメッセ」	4・5
2. 2019年度 活動実績	6・7
3. センターの取り組み	8
3.1. カリキュラム	8・9
3.2. 活動サポート	10
(1) マッチング	11
(2) 自主活動の支援	12・13
(3) チャレンジファンド	14・15
4. 学生スタッフの活動	16・17
5. 走り続けるCCC ～あらためてつながる、その大切さ～	18
6. 2019年度 全体講評	19
7. 初めてボランティアを募集される方へ	19

Information

2016年2月
「CCC labo」開設

みんなの笑顔で、地域を変えよう！
活動の様子を絶賛公開中！

本書にて紹介しきれなかった学生たちの活動の様子を、特設サイト「CCC labo」にて発信しています。
ぜひご覧ください。



←QRコードまたは CCC labo nagoya で検索！



1 コラボメッセ



2019年12月8日(日)に行政機関、企業、NPOなど(以下、CCC連携団体)のみなさまと一堂に会する第5回「コラボメッセ」をおこないました。今年は参加団体の数が過去最高となり、

前半の活動発表交流は大盛況となりました。後半は、講演会とパネルディスカッションを通して、本学の理念でもある「違いを共に生きる」について、深く考える機会となりました。

第1部 活動発表



本学学生団体26団体、他大学学生団体6団体、CCC連携団体31団体が活動発表に参加しました。学生たちは、活動紹介を通して自分たちの活動の目的や地域の課題を改めて考え、他団体の活動を知ることによって多くの刺激を受け、新たな可能性や意欲につながる機会となりました。

第2部 講演&パネルディスカッション



日本介助犬協会の高柳友子さんに「違いを共に生きる」をテーマに講演をしていただきました。現在の障がいがある方に対する支援制度、補助犬の役割や活躍の様子、そして今後のセラピー犬の可能性についてお話を伺いました。学生たちからは、障

がいがある方に対する制度自体が身近になく、今回学ぶ機会があり良かったと感想が出ました。

パネルディスカッションは高柳友子さん、マイライフ刈谷所長の佐藤元紀さん、本学学生2人で「障がいがある・ないについてどう思いますか?」という質問から始まり、「新しい違いに出会う一歩は、どう踏み出すのか?」というテーマで意見交換をしました。「障がい」をキーワードに、一歩を踏み出すパワーはどこからやってくるのか、どうしたらやってくるのかについてディスカッションをおこないました。参加者一人ひとりの中にそれぞれの結論がある中で、パネラーの方々から「障がいという枠をつくらない」という言葉をいただきました。

第3部

CCC@homeライブ



第3部は恒例となった全員での大合唱。今年も昨年に引き続き、選曲は「ボクノート(スキマスイッチ)」と「WAになっておどろう(V6)」。「ボクノート」はCCCが開設した年に流行した曲です。ギターを生演奏とダンスを交え、会場が一体となるあたたかい時間を過ごしました。CCCに関わってくださるすべての方々への感謝の気持ちがあふれ、これから先もみなさまと一緒に走り続けたい、と改めて強く感じた会となりました。

他大学学生団体の紹介 計6大学



「SPLIA 国際子ども支援ボランティア」
(愛知学院大学)



「DoNabe net in あいち」
(愛知県立大学)



「FIWC東海委員会」
(南山大学&愛知淑徳大学)



「ボラセンCWクラブあすなろ」
(名古屋学院大学)



「次世代エネルギーワークショップ名古屋」
(名古屋市立大学)



「歴史文化研究会」
(名城大学)

ご協力いただいた連携団体・他大学学生団体のみなさま

愛知県被災者支援センター、アジア車いす交流センター、アジア保健研修所、アスクネット、AJU自立の家、オイスカ中部日本研修センター、下呂市 小坂地域振興課、こどもNPO、スペシャルオリンピックス日本・愛知、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ、デンソー、東邦ガス ガスエネルギー館、とよた学生盛りあげ隊、豊田市 子ども会議、トヨタ自動車 ボランティアサークルJDRトヨタ、長久手市 たつせがある課、なごや環境大学、名古屋国際センター、名古屋市 河川計画課、名古屋市市民活動推進センター、名古屋市障害者スポーツセンター、名古屋市千種区社会福祉協議会、名古屋市千種区選挙管理委員会、名古屋市名東区社会福祉協議会、西尾市 佐久島振興課、日進市 市民協働課、日本介助犬協会、ぶくぶくばーん、ボラみより情報局、楽歩、レスキューストックヤード、SPLIA国際子ども支援ボランティア(愛知学院大学)、DoNabe net in あいち(愛知県立大学)、ボラセンCWクラブあすなろ(名古屋学院大学)、次世代エネルギーワークショップ名古屋(名古屋市立大学)、FIWC東海委員会(南山大学&愛知淑徳大学)、歴史文化研究会(名城大学)

※あいうえお順、法人名省略

2 2019年度

コミュニティ・コラボレーションセンター 活動実績

●利用状況

CCC登録者人数 2,468人
利用者数 延べ14,243人

登録利用者 ボランティア活動に参加するためのCCCへの登録
情報取得、活動の相談、ランチタイム企画参加、ミーティングなどで来室する学生
参加者 連携団体から募集があったボランティア活動にCCCを通して申込み・参加した学生、または学生団体などの自主活動に参加した学生

募集型ボランティアへの参加者数(分野別)

年度	国際交流・協力	青少年育成	まちづくり	福祉	環境	震災支援・防災	学生団体	その他	計
2019	79	200	75	184	48	10	1,233	44	1,873
2018	108	171	25	256	99	23	1,584	89	2,355
2017	144	234	163	293	150	22	1,039	61	2,106

●産学官連携事業(抜粋)

- 株式会社デンソーとの連携
学生スタッフがデンソーハートフルまつりにてブースを企画・運営
- 東邦ガス株式会社との連携
学生団体「エネAS」が、ガスエネルギー館にてイベントを企画・運営
- トヨタ自動車株式会社ボランティアサークル「JDRTヨタ」との連携
有志学生との共同企画として、児童養護施設の子どもたちを本学長久手キャンパスに招待し、交流会を実施
- 愛知県との連携
かがやけ☆あいちサスティナ研究所の研究者として本学学生が参加
- 愛知県警察との連携
学生団体「tASUkeai」が、防犯体験学習イベントを企画・運営
- NPO法人楽歩との連携
学生団体「キズナ日和」が、利用者の方々と共に楽歩の活動に参加

●受託事業(抜粋)

- 男女共同参画パートナーシップ事業 (委託者:日進市)
- 子ども大学につしん (委託者:日進市)
- グリーンマップ作成プロジェクト(委託者:長久手市)
- 西尾南部ベイエリア体験プログラム開発プロジェクト (委託者:西尾市)
- 長久手市大学連携推進ビジョン4Uの推進に関する事業 (委託者:長久手市)
- 小坂地域連携プロジェクト (委託者:下呂市)

●助成金交付事業(抜粋)

- 長久手市より助成
 - ・学生団体「あっとほーむ」による生活困窮世帯の子どもたちへの食育事業
 - ・学生団体「キズナ日和」による地域連携活動や施設でのイベント企画・運営
- 日進市より助成
 - ・学生団体「ちゃっちゃん」による障がいがある子とない子の交流イベントの企画運営
 - ・学生団体「チームわんわん」による介助犬の認知度・理解拡充活動
- 国際ソロプチミスト名古屋-栄より助成
学生団体「ボランティアサークルあじゅあす」による障がい者や高齢者対象のイベントの企画・運営

●メディア掲載情報(抜粋)

発行日	掲載紙	掲載内容
2019年6月	JA 西三河コミュニティ誌「にしみかわ PoN!」No.17	学生団体「Step In 佐久島」が島民と一緒に商品開発
2019年9月7日	環境情報誌「Risa (リサ)」Vol.244	なごや環境大学の企画チーム「WATSUKAMONO Village」に参加している本学学生が環境デーなごやでブースを企画・運営
2019年9月11日	岐阜新聞(飛騨国新聞)	下呂市と本学が連携協定締結
2019年9月13日	中日新聞(飛騨版)	下呂市と本学が連携協定締結
2019年10月	堀川まちづくりの会機関紙「ワカリホ」vol.10	本学学生が今年で30周年を迎える「堀川まつり」をレポート
2020年3月	コトノハなごや	「第3回コトノハなごや」一次選考の様子



表彰・認定

- 学生団体「エコのつぼみ」愛知県より全国植樹祭に招待

2006年から間伐や環境活動を継続的におこなってきた「エコのつぼみ」が、愛知県より第70回全国植樹祭に招待されました。当日は、県内で活動している多世代の人々と共に植樹をおこないました。



- 釜石市より感謝状受領

東日本大震災後に子どもたちの心を少しでも癒せないかと、学生有志で様々な動物たちの様子を記録したCDを作成して贈りました。今回、改めて本学園宛に感謝状をいただきました。



- 下呂市と連携協定締結

本学園の淑友館(林間学舎)がある下呂市小坂町。小坂町の地域活性化、産業振興を目的に、下呂市と連携協定を結びました。今後は、ビジネス学部大塚ゼミナール、CCCの学生たちが活動をおこなっていきます。



3 センターの取り組み

3.1 カリキュラム

地域へ、未来へ、走り出す。
自ら考え行動する力を育みます。

CCCでは、地域と連携して取り組む社会貢献活動に、学生が段階的にチャレンジできるよう「CCC開設科目」を開講しています。ボランティア活動の基礎や地域の方々と協働する上で必要となるマナーや支援方法などを学ぶ「知識系科目」、仲間と一緒に活動を起こす際に必要となる手法や考え方を学ぶ「スキル系科目」、社会が抱える問題の解決に向けて実際にアクションを起こすプロジェクト型の「実践系科目」など、多様な科目構成で実際の活動や将来に役立つ知識やスキルを修得します。



2019年度CCC開設科目一覧

●知識系

CCC スタートアップ講座	榎田 勝利 先生 沖 直子 先生 高森 順子 先生
ボランティア	沖 直子 先生
障がい者支援ボランティア	荒賀 博志 先生
まちづくりマーケティング	大塚 英揮 先生 沖 直子 先生

●スキル系

企画立案の基礎	大塚 英揮 先生 沖 直子 先生 丹羽 幸美 先生
ファシリテーター養成講座	沖 直子 先生

●実践系

CCCキズナプロジェクトA・B	沖 直子 先生
-----------------	---------



授業報告 「CCCスタートアップ講座」

榎田 勝利 先生



履修生の声



“なぜボランティアをしないのか？” その理由はきっかけがない、時間がない、情報がない、能力と自信

がない、ただ働きなど。また「ボランティアと奉仕活動は同じ意味？」と間違えて捉えている学生たち。授業ではボランティアに対するステレオタイプのイメージを「変える」ことからスタートする。そのために私自身の国内外のボランティア体験、社会人となった卒業生たちのボランティア体験など、実践から学んだことが、現在どう役立っているかを直接プレゼンしてもらう。

私はこの授業を受けてボランティアに対する認識が変わりました。ボランティアは奉仕活動ではなく、自分の人生の財産になることや新たな選択肢をつくるきっかけになることを学び、ボランティアに参加したいという気持ちが強くなりました。また、活動する卒業生の話を聞くことで参加へのハードルが下がりました。初めの一步を踏み出せなかったのですが、この授業のおかげでボランティアの魅力を知ることができました。

交流文化学部 履修生

体験した人から発する「言葉」は、「人の心」に響くことを学ぶ。ボランティア活動は、単なる慈善活動、奉仕活動ではなく、多様な人との出会いを通して新しい生き方を実現する行動様式であることに気付く。



授業報告 「ファシリテーター養成講座」

沖 直子 先生



履修生の声



ファシリテーションとは、全員が参加しやすい場づくりをおこない、話し合いや交流を促進する方法です。授業

では、全員が打ち解け合い知り合っていく過程を大切にしながら、段々に、学生同士でも進行役(ファシリテーター)をやっていきます。言葉だけではないコミュニケーション実践のために、即興演劇(インプロ)のゲームも取り入れています。クラスが一つになるにつれ、驚くような作品も生まれます。バイトを休んで旅に出たら新

もともと人と関わることが好きでしたが、本授業を通してよりその思いが強くなりました。履修前は「ファシリテーターって何だろう？」と思っていましたが、ファシリテーターとしての力は全15回を通して自然と身に付いていきました。履修すれば、あなたもきっとこの授業の虜になりますよ。

創造表現学部 3年 片岡 尚子

幹線で店長に鉢合わせた！なんてシーンとか、すごろく形式で思い出を語り継ぐゲームの発案とか。クラスみんなが、とりあえずやってみる、失敗してもいい、みんなといれば何かができる、という良い意味で仲間任せの、自由なチームワークを発揮したからこそ、とてもクリエイティブなアイデアが実っていくのだと思います。



授業報告 「CCCキズナプロジェクトB」

沖 直子 先生



履修生の声



この講義は学生が地域に出て、実際にアクションを起こしていくプロジェクト型の授業です。今年度は初の星が丘キャンパス開

講、留学生や長久手キャンパス所属学生の受講もあり多様性に満ちたクラスでした。連携先は久遠チョコレート藤巻店。1階では障がいがある方がパティシエとして活躍し、2階は医療的ケア児を受け入れています。活動については連携先と対話を重ね、子どもの職業体験「ちょこのこごっこ」の開催、医療的ケア児を預

このプロジェクトは自分自身について見つめ直すきっかけになりました。そして自分はどうのように社会と関わっていくことができるのか、深く考えさせられる良い機会にもなりました。また「違いを共に生きる」ことを最も体感できた講義でもあります。

文学部 4年 伊藤 佐恵

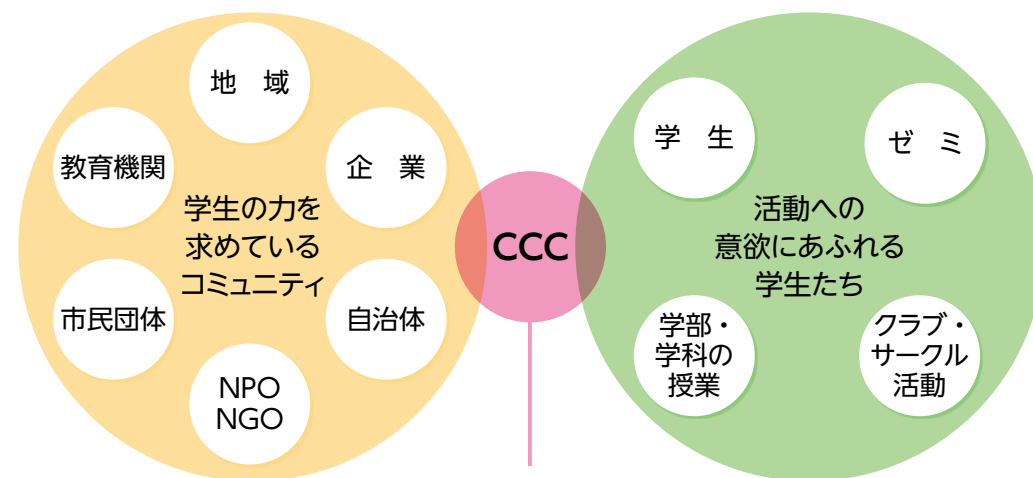
けて久遠で働くママとの対話会、ハーブ園づくりなど、幅広く取り組みました。福祉にほぼ初めて触れた学生も活動をきっかけに視野を広げ、授業外でも体験をHP記事にまとめたり、卒論でも取り組みたいと意欲を高めていました。ハーブが芽を出したらまたみんなで足を運ぶ予定です。

3.2 活動サポート

みんなが蒔いた「種」を、大きな「樹」に育てたい。
地域貢献、社会貢献活動をきめ細かくサポートします。

「チャレンジしたい!」と自主活動への意欲が芽生えるきっかけは、個人的な興味・関心、学部・学科の授業、ゼミ活動、クラブ・サークル活動など、学生一人ひとり異なり、活動の目的や内容也多岐にわたっています。そこでCCCは、学生とコミュニティとの出会いをコーディネートし、学生の思いを具体的な活動へと結び付ける橋渡しをしています。

特にCCCを拠点に活動する学生団体には、CCCスタッフが「アドバイザー」として寄り添い、活動を進めていく上で見つかった課題の解決をサポートしています。運営資金をサポートする「チャレンジファンド」(P.14・15参照)のほか、2015年度からは学外の地域団体とのコラボレーションを実現する「コラボメッセ」(P.4・5参照)を年1回実施するなど、支援制度を拡充しました。



学生とコミュニティをつなぎ、
さまざまな地域活動を活性化します

サポートの3つの形

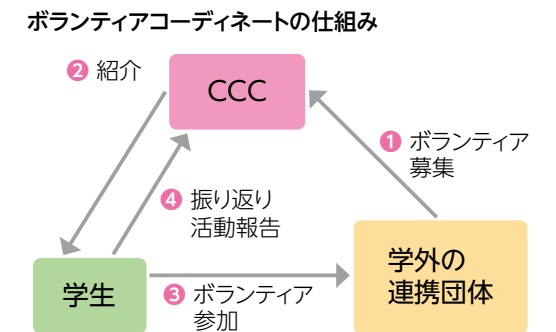
- (1) 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング … 11
- (2) 学生団体などによる自主活動の支援 …… 12・13
- (3) 【学内助成事業】チャレンジファンド …… 14・15

(1) 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング

自主活動に挑戦する学生の初めの一步として、ボランティア活動への参加があります。

センターでは、ボランティア募集情報の収集、学生への紹介、学生スタッフらによる窓口相談などを通して、マッチングをおこなっています。

ボランティア募集情報は、センターでの掲示のほか、月に2回、全学生に電子発信しています。活動分野は、国際交流・協力、青少年育成、まちづくり、福祉、環境など様々です。2019年度は、延べ1,873人が活躍しました。



国際交流・
協力

フェアトレードブース@淑楓祭

連携先：NPO法人アジア車いす交流センター、
フェアトレードショップ風"s

初めてのボランティアでしたが、友人と一緒に参加したことで気軽に参加できました。NGOのフェアトレード商品を来場者に知っていただく、購入していただく活動でしたが、お客さんにも私たちボランティアにもフェアトレードを理解する、関わるきっかけになりました。このボランティアに参加することで、留学生も含め、友人が増えました。普通に知り合いになることは簡単でないけれど、一緒に活動準備をしていくうちに会話ができて仲良くなれたことが良かったです。大学で友人を増やしたい人にはぴったりのボランティアです。



グローバル・
コミュニケーション学部 1年
武田 京子

青少年
育成

ハロウィンイベント

連携先：浄水交流館（豊田市）

私たちは、豊田市の浄水交流館で小学生を対象におこなわれるハロウィンイベントの企画立案から当日の運営まで関わりました。学部異なるメンバーや交流館のスタッフの方々との限られた打ち合わせの中で、提案した企画の中から当日おこなう内容の決定や準備をすることはとても大変でした。しかし、私たちが考えた企画で子どもたちが楽しんでいる姿を見て、喜びとやりがいを感じ、さらには自分自身の成長にもつながりました。



福祉貢献学部 1年
上條 真美
健康医療科学部 1年
鈴木 仁菜・鈴木 柚衣
徳永 彩萌・藤田 桃奈

まちづくり

ながくてリニモテラスプロジェクト！ おばけやしきを開催しよう！

連携先：リニモテラス運営協議会

私たちは「子どもと関わりたい」、「SDGsについての学びを深めたい」と思い、長久手市リニモテラスのプロジェクトに参加しました。当日までに打ち合わせをおこない、SDGsを楽しみながら学ぶためのクイズやおばけやしきの中で驚かす方法を話し合いました。準備段階でどのようにしたら面白くなるかななどの考えを出し合うことが、良いものを創ることにつながるということを学びました。また、それらは全員が一つの目標に向かって考えているからだ実感しました。



福祉貢献学部 3年
熊谷 理紗子・下洞 麻未

青少年
育成

ひとり親世帯の親子へ 自然の森体験機会を贈る

連携先：住友理工株式会社、特定非営利活動法人こどもNPO

住友理工株式会社、こどもNPO、長野県池田町のみなさんと安曇野の自然豊かな環境で、ひとり親世帯の親子を招いて自然体験をおこなう事業に参加しました。最初は戸惑うことも多くあり、子どもたちとどう接していけばいいのかわからないこともありましたが、多くの人のサポートや、何よりも子どもたちの楽しそうな笑顔のおかげで楽しみながら活動することができました。4年間の活動を通して、地域社会や自然環境の大切さ、子どもたちとの関わり方など多くのことを学ぶ貴重な経験となり、自分自身大きく成長することができたと感じています。



ビジネス学部 4年 丹羽 将旗

(2) 学生団体などによる自主活動の支援

ボランティア活動への「参加」に留まらず、同じ社会問題に共感する学生たちが集まり、課題解決に向け、自主的に活動しています。

CCCを基盤に自主活動をおこなっている学生団体を「CCC学生団体」とする、登録制度を設けています。その数は現在、約30団体。そのほとんどが、学生のみではなく、地域の市民団体・福祉施設・企業などと連携して活動しています。

CCC学生団体にはスタッフがアドバイザーとして就き、活動の「伴走者」としてサポートします。

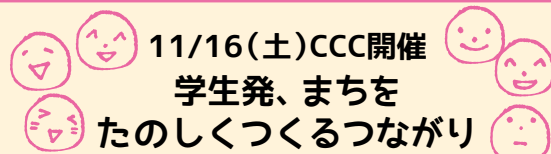


地域活動に向けてのミーティング

また、自分たちの体験を振り返るための自己点検報告書を共に作成し、支え合いながら活動を改善・継続できる仕組みを構築しています。

長久手市4大学連携事業

ビジョン4Uワーキング



11/16(土)CCC開催
学生発、まちを
たのしくつくるつながり

この事業では、長久手市と市内の4大学が協定を結び、社会貢献/教育活動支援/研究推進/拠点整備の4つのビジョンに基づく取り組みをおこなっています。ここ2年間は、各大学の特色を活かしたワーキングを大学で実施し、学生連携に留まらず市民の方にも開くことを目指しました。本学担当回では、市内で活動する学生・市民団体を中心に声をかけ、横断的な交流を目的としたワークショップを開催しました。内容は「ファシリテーター養成講座」を受講した学生チームで準備し、当日の進行も学生が担いました。参加



者からは「幅広い世代の地域への想いを聞くことで、活動への意欲が高まった」「初めの一步を探して参加しましたが、活動に誘っていただき具体的な稼働への一歩となりました、感謝しています」という声が届きました。

今回のプログラムは、学生団体の活動を地域の人や学生に知ってもらい、つながりができるきっかけになることを目的として企画しました。ワークショップ当日、私が所属する学生団体の活動に興味を持った愛知県立大学の学生が、後日活動に参加してくれました。その学生は、ボランティア活動に関心があっても、何から始めるべきかわ

からず、「今回の4Uワーキングが、活動に踏み出す一歩になりました」と話していました。このように学生団体以外の学生とつながりができたことは、4Uワーキングという機会があったからだと感じます。今回のプログラムで、少しでも色々なつながりが生まれていたら嬉しいです。

心理学部 2年 久保田 朝美

地域 ∞ 学生

あっとほーむ



私たちは「居心地の良い空間づくり」をモットーに、学生と地域の子どもの関わりを大切にしながら活動しています。内容は固定せず、子どものしたいことを学生がサポートしています。今年度は新たに「食育」をテーマとした活動を取り入れました。一緒に料理するだけでなく、子どもたちに食事の大切さを知ってもらう時間を設けました。初めて企画した内容で大変なことは多かったのですが、子どもたちが自分でつくった料理をおいしそうに食べている

姿や学生と楽しそうに話している姿を見て達成感を得ることができました。その場は子どもたちだけでなく、私たち学生にとっても居心地の良い空間となっていました。これからもそんな空間づくりができるような企画をしたいです。

文学部 2年 竹市 仁美

連携先: 長久手市学習支援事業受託者

飯田 様の声

子どもたちにとって、愛知淑徳大学の広々とした中で「食育」をテーマとした活動ができたことは、とても良い思い出になりました。子どもたちの活動への感想文からも伺えました。これからも、愛知淑徳大学の学生さんのみなさんに活動をおこなってもらえたらいいなと思っています。モットーの「居心地の良い空間づくり」である「あっとほーむ」の活動、頑張ってください!長久手市の子どもたちを共に支えられたらと思います。

地域 ∞ 学生

なごやであそび隊



2011年の東日本大震災。愛知県に避難された子どもたち(ご家族)の心が癒される居場所をつくりたい、そんな想いから9年前になごやであそび隊が結成されました。子どもたちの年齢と共に変化するニーズに応え、現在は学習支援に力を入れています。それぞれの“今”がある子ど

連携先: 愛知県被災者支援センター

戸村 様の声

「なごやであそび隊」のみなさんは、避難者の親子にとって優しい味方です。本来の「あそび隊」企画の他にも、避難者交流会の託児係として子どもたちと遊んでもらい、大人たちの悩みにもさりげなく耳を傾けて交流してくれています。その中で、彼らは確実に地域社会の重い課題に触れ、それを自分で感じ、考え、心をくぐり、成長していきます。ボランティア活動という以上に、地域とコラボレーションする大学に対しても期待するところ大です。

もたちが物事に真剣に向き合う姿や笑顔を見て、小さな“こころ”から大きな“こころの輪”が生まれることを学びました。そして、被災者の方からいただく「ありがとう」という言葉には、たくさんの想いが込められていることに気付かされました。今後も、その想いに感謝して活動していきたいです。

交流文化学部 2年 伊藤 菜々子

地域 ∞ 学生

にじいろあーす



私たちは、異文化の価値観の違いを理解するきっかけとして、外国人と交流するイベントを企画しています。2月20日(木)に、名古屋YMCA日本語学院の留学生を大学に招待しました。大学案内や留学生からの母国紹介、様々なゲームを通して交流を図りました。

6カ国の留学生たちとは片言の日本語、また英語や中国語など様々な言語でおしゃべりをしました。企画メンバー

連携先: 名古屋YMCA日本語学院

惟任 様の声

交流イベントに参加した留学生の声で多いのが「とても楽しかった」「大学生のみなさんがわかりやすい日本語で話してくれた」「初めて日本人と長い時間話すことができた」です。特に昨年6月の交流会では、留学生から「今度は大学生のみなさんに日本語学校へ来てもらって、自分の国について紹介したい」という声が上がリ、8月に当校での交流会も実現しました。このように留学生のやる気を引き出すことができる「にじいろあーす」のみなさんは、当校の留学生にとってかけがえのない存在です。

からは、「相手を知り、理解したいという気持ちの必要性を感じました。そして、より深く関わるためにも、もっと言語も学んでいきたいと思います」といった意見があがりました。

今後も、異文化交流を続けていこうと思います。

交流文化学部 3年 岡嶋 亜依



(3)【学内助成事業】チャレンジファンド

CCCでは、学生による様々な自主活動を助成する「チャレンジファンド」を設けています。地域のニーズや思いに応える活動、社会的に意義の高い活動に対して、愛知淑徳大学後援会の協力を得て、資金面での助成と活動サポートプログラムの提供をおこなっています。

2019年度は、「スタートアップ部門(助成額上限5万円)」、「一般部門(助成額上限



10万円)」の2部門において、公開プレゼンテーション及び学内の教員たちによる審査の結果、11団体が採択され、それぞれの活動を展開しました。



2019年度チャレンジファンド採択団体一覧

法人名省略

	団体名	活動内容	主な連携先
スタートアップ部門	キズナ日和	介護施設でのおやつを通して利用者の居心地の良い居場所づくりに取り組む	楽歩、るんるん
	せとせと	瀬戸市を知ってもらう・瀬戸市に来てもらうことを目的とし、イベントの企画や運営をおこなう	ゲストハウスますきち、窯横カフェ、瀬戸本業窯
	なないろ	ファッションという身近なテーマでLGBTの課題に向き合う	長久手市 たつせがある課
一般部門	アミーゴ	県内の外国人児童を対象に多読活動、学習支援、就学前指導に取り組む	シェイクハンズ、西尾市教育委員会
	エコのつぼみ	竹林整備を通して得たポラス炭を活用し、気軽な環境保全活動をおこなってもらう機会を提供する	モリビトの会、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ
	共同料理なごやか	孤食などの食生活の改善や多世代にわたるつながりをつくる	丁子田シニアクラブ、長久手市 三ヶ峯地区
	コミュカフェ	住民の交流を深め、世代を越えて助け合える地域をつくる	名古屋市千種区社会福祉協議会、ケアハウスシーダーヒルズ
	Fsus4	高齢者施設や障がい者施設での演奏や交流を通して、相互に理解を深める	愛知たいようの杜、森孝しぜんかん
	チームわんわん	小学校での授業やワークショップを通して介助犬の認知度・理解拡充を図る	日本介助犬協会
	魅農里	農作業や講座企画などを通して食のありがたみを伝える	みどりの里
	ユニコま Plus +	バリアフリーやユニバーサルデザインの理解を深め、障がいがある人の服のリメイクに取り組む	ユニクロ星が丘テラス店、えとせとら、ファクトリエ星が丘テラス店、瀬戸市立瀬戸特別支援学校

2019年度採択プロジェクトのうち、4団体の活動を報告します。

スタートアップ部門

キズナ日和 「おやつ日和～たまには茶ぶタイム～」

キズナ日和は、学生のうちにやってみたいこと・叶えたいことにチャレンジできる場所です。そして、自分の考えや想いを共有できる仲間が集まっています。私たちはNPO法人楽歩と共に企画や提案をし、イベントをおこなっています。現在取り組んでいる活動は、「おやつの日」です。おやつを施設の利用

者の方々、職員の方々と一緒に食べます。一つのテーブルをみんなで囲みゆったりとした時間の提供や心を通わせる場を目指しています。これからも、年齢・性別・立場に関係なく、一人ひとりに笑顔になってもらい、ここにまた来たいと思ってもらえるような居場所を一緒に創り続けていきたいと思っています。キズナ



日和の活動を通して、きっと自分らしくいられる場所になっていくと思います。

文学部 4年 山本 智永

なないろ 「What is your style ?」

私たちは、長久手市にて、男性らしさ・女性らしさを見つめ直し、自分らしさについて考えるファッションイベントを開催しました。すぐに結果の出る活動ではないため、参加してくださった方々にどのようにして自分らしさを考える機会を持てもらえるかを必死に追求しました。

参加者のみなさまには「自分らしさを考える機会はありませんでした」という感想をいただき、大変嬉しく感じました。今後も、多くの人が自分らしさを大切にできるような活動を続けたいと考えています。



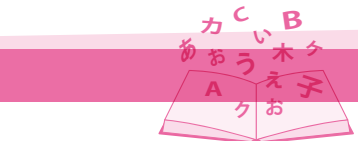
交流文化学部 2年 吉村 百花

一般部門

アミーゴ 「子ども応援団」

アミーゴの活動の対象である外国にルーツを持つ子どもは、異なる言語や文化を持つことで日本での学校生活や将来に不安を抱えることが多く、そんな子どもたちの可能性や人との交流を広げられるよう私たちは活動を続けています。私は2年間の活動の中で、活動を「継続的に」おこなう大切さを強く感じま

した。例えば日本語教育の活動での「ここまで本読めたよ!」「明日も来るね!」という声は、子どもたちの成長を見ることができ、また彼らとの信頼関係ができたという継続的な活動だからこその結果だと思います。これからもアミーゴは、彼らの応援団として活動を続けていきます。



交流文化学部 3年 祢宜田 有沙

共同料理なごやか 「食で広める交流の輪」

「食」を通して「みんなで食べること」への楽しさを感じてもらいたい、高齢者の外出するきっかけと居場所になる場を提供したい、と思い、地域の高齢者団体と料理などを通じた交流をしています。今年度は、家族のような関係を築きたいという思いから活動頻度を増

やし、隔月で「家族会」というものをおこないました。交流する回数が増えたことで、顔と名前が覚えられような関係になり、より深い交流になりました。活動を通して、人と意見を交わす楽しさを感じ、物事を様々な方向から考える大切さを学びました。



健康医療科学部 3年 國武 実里

4 学生スタッフの活動



学生スタッフは、同じ学生という目線から、学生の持つ様々な思いを形にする重要な役割を担っています。会話を通して、一人ひとりの個性を活かし、新たなチカラを共に発見するお手伝いをしています。

また、ボランティア紹介業務だけでなく自ら企画などもおこなっています。

2019年度 学生スタッフ

長久手キャンパス

板津 匡哉 (福祉貢献学部4年)
 驛田 彩音 (福祉貢献学部3年)
 唐田 宏樹 (福祉貢献学部3年)
 川口 紗奈 (創造表現学部3年)



星が丘キャンパス

桑山 千香子 (交流文化学部4年)
 小林 知世 (交流文化学部4年)
 青砥 祐太 (交流文化学部3年)
 松浦 実咲 (グローバル・コミュニケーション学部3年)
 水谷 麻美 (交流文化学部3年)
 伊藤 菜々子 (交流文化学部2年)
 三浦 真梨乃 (交流文化学部2年)



2019年度の主な活動

2019年 4月10日	新入生歓迎フェスティバル・学生団体リーダー会
2019年 7月11日	学生スタッフ企画「ねえCってる?〜CCCにいたよ こんな人!〜」
2019年 9月22日	株式会社デンソー主催「デンソーグループハートフルまつり」ブース出展
2019年10月26日	淑楓祭ブース出展 〜ポッチャ体験〜
2019年11月21日、12月12日、 2020年 1月 9日	学生スタッフ企画「つまみーの」
2019年12月19日	アクティブラーニングセンター交流会
2019年12月25日	学生スタッフ企画「冬のスタートダッシュ〜AS 保育室×CCC〜」
2020年 2月14日	学生スタッフ企画「JICAに行こうツアー」

ポッチャ体験@淑楓祭



今回多くの方にポッチャを知っていただけよう、体験会を企画しました。

保護者の方がお子さんに向けて「ポッチャっていうパラリンピック競技があるんだよ」と熱心に伝えられたり、年配の方が初対面のお子さんに勝負を挑んだりする姿が印象的でした。みなさんと触れ合う中で、ポッチャは、障がいがある人もない人も、年配の方も若い方も一緒に楽しめるユニバーサルなスポーツだと改めて感じる事ができました。

福祉貢献学部 3年 唐田 宏樹

JICAに行こうツアー

外国文化に興味があるメンバーでJICA中部「なごや地球ひろば」に足を運び、青年海外協力隊員の役割やスリランカの文化を学ぶことができました。「こうするべきという定義がないからこそ国際貢献はおもしろい」とおっしゃった隊員・佐々木さんの言葉がとても印象的でした。スポーツのできる国際貢献もあるように、私たちにできる支援は幅広く存在していることを認識できました。



グローバル・コミュニケーション学部
 3年 松浦 実咲

つまみーの

今年初めて実施した「つまみーの」は、後期になるにつれてCCCを訪れる学生が少なくなったことから、「もっとCCCを知ってもらいたい!」「CCCに来る一步のハードルを下げたい!」と考え、学生スタッフみんなで企画しました。計3回開催した「つまみーの」では、学生の様々な興味のどこかにヒットするよう、毎回違う内容を考えました。共通点は、何かをつまみながら交流することです。2回目のグローバルラウンジとコラボした企画は、グローバルラウンジ利用者やスチューデントアシスタント、留学生と共に話しながらご飯を食べました。グローバルラウンジも利用者がなかなか増えないことが課題となっていたので、協力して開催しました。回数をこなすうちに徐々に参加者が増え、3回目のこたつを用意した「つまみーの」では、センターの中に入りきらないほどの学生が来てくれました。今回「つまみーの」を通して、どのような人に来て欲しいのかターゲットを絞って企画する大切さが学べたと思います。

交流文化学部 3年 青砥 祐太



卒業する学生スタッフの言葉

学生スタッフになり、それまで関わりのなかった分野の活動に触れることができ、自分自身の視野が広がったと実感しています。また、そこで活動する学生と交流する中で、それぞれの信念を知り、一歩引いた

立場から共に悩んだり考えたりできた経験はとても有意義でした。

福祉貢献学部 4年 板津 匡哉

ボランティアで、「自分にできること」を考える大切さを学びました。「原動力」から「体験」へ。振り返り、「できること」を考える。その時間があるからこそ、挑戦し続けます。学生スタッフとして、「原動力」と「体験」に向き合い、挑戦する学生との出会いは愛おしい日々であり、私の財産です。

交流文化学部 4年 桑山 千香子

CCCで過ごした時間は、たくさんの素敵な人たちやできごとと出会い、まるで大きな冒険をしているかのようなでした。卒業と共に、CCCでの私の冒険は終わりますが、これらの経験が、今後の私の新しい夢や行動につながると信じています。これからも学生さんのCCCでの大きな一歩を心から応援しています。

交流文化学部 4年 小林 知世

5 走り続ける CCC

～あらためてつながる、その大切さ～

アクティブラーニングセンター交流会

初の試みとして、12月19日(木)に星が丘CCCにてキャリアセンター、国際交流センター、CCCの学生スタッフ15人が集まり交流会をおこないました。4グループに分かれ、センター紹介、活動紹介、各センターの抱えている課題をテーマとし、全体で共有しました。

ワークでは自分たちのセンターがもっと良くなるようにと様々な情報や意見を交換しました。そして、各センターが多くの学生に利用してもらえる工夫についても確認することができました。

学生たちの交流会を受け、後日、教職員FD・SD研修会もおこないました。学生スタッフたちの新しい試みが、アクティブラーニングセンター全体をつなげるきっかけとなり、今年度より継続して実施していくこととなりました。



留学生の活動

長久手キャンパスで開講されていた留学生別科の科目が今年度より星が丘キャンパスでの開講となりました。様々な国の留学生との交流や活動がおこなわれ、学部在学学生にとっても、外国の文化を身近に感じ学べる機会となっています。留学生にとっても、ボランティア活動に参加することで日本の文化を知ってもらえる機会となっています。



私は、母国(インド)では看護師をしています。日本に来て、何か人の役に立つことがしたいと思って、ボランティア活動に参加しました。学部生と一緒に活動することも、大学の近くの人々と出会い地域を知ることでも大変楽しかったです。

センター等国際交流センター
留学生別科 1年
Shanthi Thomas

日中韓交流事業

名古屋青年会議所からの依頼で日本・中国・韓国の6年生各15人を対象に、国際交流の企画依頼を受けました。テーマは「仲間と国の違い、同じを発見するワークショップ」です。それぞれの文化の違いを学んでもらい、また同じ地球上の仲間であることも感じてもらう企画を学生たちが試みました。



企画から参加しましたが、授業の合間にイベントをつくっていくことは思っていたよりも大変なことでした。ミーティングでは、言語が違う子どもたちをどう理解して楽しんでもらうかをメンバーで考え、何度も練り直しました。いざ当日となると子どもたちの元気の良さ、素直さから逆に私たちが勇気付けられました。世界情勢では国と国の間に隔たりを感じる時もありましたが、子どもたちには関係はありませんでした。将来大人になった時、今回のイベントを思い出してくれたら嬉しいです。

グローバル・コミュニケーション学部 3年
松浦 実咲

6 センター長より

2019年度 全体講評

コミュニティ・コラボレーションセンター
センター長 森 博子
(人間情報学部 教授)



CCC設立13年目にあたる2019年度は、夏の猛暑や新型コロナウイルスの影響で中止になった活動があったり、大型の台風により新たな活動が生まれたりし、それらに柔軟に対応してきた1年でした。

特に新型コロナウイルスの影響で2月と3月は活動が取り止めになり、全体的にはボランティア活動に参加した学生数は例年より約15パーセント減少したものの、CCC開設授業の履修者数やコラボメッセの参加団体数等は増加し、例年と同等以上に多くの学生が積極的に学び活動することができました。また2019年度は、これまでの長年の活動が認められ、第70回全国植樹祭への招待を受けたり、釜石市から復興支援に対する感謝状をいただきました。さらに、台風の被災者支援にも力を入れました。

た。今後も、困っている人がどのような状況であるのか、何を欲しているのか、自分たちは何を提供できるのかをしっかりと考えて臨機応変に対応していきたいと思っています。

このように活動できておりますのも、学生に貴重な機会を与えていただいた地域の皆様、企業・団体・行政の皆様ののお力添えのおかげです。また、学内外の教職員の皆様には日頃からCCCの活動にご理解・ご協力いただいております。ここに深く感謝いたします。今後も、ご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



7 初めてボランティアを募集される方へ

当センターでは、ボランティア募集情報の取り扱いについて、「ボランティア情報の取り扱いに関する方針」を基本としています。

ボランティアを募集される場合は、まずはHPでご確認いただき、お電話でご連絡ください。

URL: <https://www.aasa.ac.jp/institution/ccc/volunteer/01.html>

2019年度 CCC運営委員

委員長	森 博子	(人間情報学部)
	三 和 義 武	(文学部)
	村 主 朋 英	(人間情報学部)
	大 崎 園 生	(心理学部)
	村 上 泰 介	(創造表現学部)
	山 本 周 史	(健康医療科学部)
	中 村 弘 佳	(福祉貢献学部)
	ブイ チ トルン	(交流文化学部)
	渡 邊 聡	(ビジネス学部)
	平 田 亜 紀	(グローバル・コミュニケーション学部)
	高 森 順 子	(コミュニティ・コラボレーションセンター)
	和 田 恭 治	(コミュニティ・コラボレーションセンター)

スタッフ

長久手キャンパス
青木 周子
内山 恵
沖 直子
加藤 沙也果
山本 愛
星が丘キャンパス
秋田 有加里
今井 里香
岩永 昌子
中江 倫子